

季報

二松学舎大学附属図書館
quarterly report



目次

- ❖ P2 この秋、展覧会を訪れてみては？ 小野真弓
- ❖ P3 図書館で見つける秋
- ❖ P4 「図書館を使う！ レポート・論文の書き方ワークショップ」開催
- ❖ P5 ビブリオバトル開催
- ❖ P6 教えて、漱石先生 「文献複写の謝絶をなくしたいの巻」
- ❖ P7 図書館川柳 「本の嘆き篇」
- ❖ P8 図書館だより／レファレンス本の紹介

No.93

2015(平成27)年
9月

この秋、展覧会を訪れてみては？

非常勤講師 小野 真弓

芸術の秋といわれる季節になりました。毎年秋になると見所のある展覧会が多く開催されます。落ち着いた季節に精神性を高めたいという人々の欲求が高くなるためでしょうか？空気が澄んで乾燥するという環境も、文化財の虫干しにはふさわしい季節です。ここでは、幾つか筆者のお気に入りの博物館・美術館をご紹介します。ところで、二松学舎大学は都心に立地しており、博物館見物にとっても立地条件に恵まれています。学生には在学中にぜひ、多くの博物館・美術館を訪れていただきたいと願っています。しかも、当大学は、東京国立博物館のキャンパスメンバーズ、国立科学博物館の大学パートナーシップの会員であり、学生は、総合文化展・常設展は無料、特別展は割引価格で展覧会を観覧することができるという、うらやましい限りの特典を持っています。

さて、私が一番にお薦めする展覧会は、東京国立博物館の総合文化展です。以前は常設展と呼んでいた展示です。一定時期に展示品が入れ替わるので、いわゆる恒常展というわけではありません。ここでは、いつ訪れても国宝、重要文化財級の作品がさりげなく並んでいることに驚かされます。何よりも快適なのは、あまり混雑していないことです。これだけの文化財が特別展で出品されれば展覧会場に長蛇の列が出来ます。長時間入場を待たされたあげく、ようやく展示室に入れても、「立ち止まらないで下さい！」というような、警備員による無慈悲な警告によってじっくり見る事ができません。それが、同じ作品でも総合文化展での展示となると、ひっそりとさりげなく展示されており、作品を間近に独り占めできるのです。しかも入館料は一般620円と、特別展の約半額で済みます。また、日本・東洋の美術史を一通り外観できるというのも、知的欲求を満たしてくれるでしょう。観覧に疲れたら、例えば東洋館地下にあるミュージアムシアターを訪れて映像を楽しんだり、本館地下にある広大なミュージアムショップで、オリジナルグッズを買い求めるのも気分転換になります。

次に、お薦めの美術館は、東京都庭園美術館です。この美術館は朝香宮邸を利用しており、アール・デコのシンプルでかつ優美な装飾がほどこされています。今夏、その建築が国の重要文化財に指定されました。ここで

は、宮家御一家の居間や大食堂などがそのまま展示室として利用されています。そのため、この美術館の魅力は、展示作品と、作品を取り巻く優美なアール・デコの調度品や壁面装飾との調和を楽しめるということなのです。まさに、日常を離れた優雅な気分にあひたるのに、ふさわしい場です。新館には瀟洒なカフェ・ド・パレがあり、晴れた日などにオープンテラスでゆったりと喫茶を楽しむのもいかがでしょうか。

なお、都心から少し足を伸ばした美術館についてもご紹介したいと思います。北茨城に五浦という名勝地があります。近代日本の美術界に大きく貢献した岡倉天心が、思索と静養の場として居を構えた地です。真っ青な荒々しい波が海岸に打ちつける風光明媚な場所として知られ、天心はこの地をこよなく愛しました。ここに茨城県天心記念五浦美術館があります。海を望む広大な土地を利用した内部空間はゆったりと余裕をもち、都心と離れているせいか観覧者もそれほど多くないため、美術品を落ち着いて鑑賞することができます。この美術館の一角に、青い海を臨めるカフェ・カメラアがあります。ここには何とも不思議なメニューがあるのです。「五浦岬公園」、「六角堂の月夜」などというメニューなのですが、名前に惹かれて「五浦岬公園」を注文してみました。すると出てきたのはフルーツたっぷりの豪華なパフェで、美術品を鑑賞した後のぜいたくな時間を過ごすことができました。芸術をこよなく愛した天心の地にふさわしい、何とも風雅なメニューです。

最後に付記しておきたいことがあります。展覧会を訪れるのなら、比較的すいている平日の日中がよいでしょう。どんなにすばらしい展覧会でも、混雑していれば興ざめなうえ、疲れます。平日に観覧することが難しい場合は、夜間開館を行っている展覧会を訪れるというのも一つの手です。仕事帰りや授業の終わった夜に、静かな気分美術品を味わうのも一興でしょう。また、インターネットホームページに割引券が掲載されていることもあります。JAF割引など、各種割引制度も今一度チェックしておきましょう。それと、人気の特別展などは、数時間待ちという場合もあるので、混雑状況なども予め確認しておくのが無難です。隠れ家ならぬ、お気に入りの館が見つかるといいですね。

図書館で見つける秋

「秋」にはいろいろな形容する言葉が付きますね。読書の秋、スポーツの秋……。最近発行されたものの中から、いくつか挙げてみました。他にもたくさんの秋が隠れていると思います。図書館でいろいろな秋を見つけてみませんか？

◇読書の秋

- ・『河合隼雄の読書人生：深層意識への道』 河合隼雄著 岩波書店（岩波現代文庫）2015年 080-IG-S285 九段
- ・『もっと面白い本』 成毛眞著 岩波書店（岩波新書） 2014年 019.9-M 九段/柏
- ・『本は友だち』 池内紀〔著〕 みすず書房 2015年 019.9-H 九段
- ・『「問い」の読書術』 大澤真幸著 朝日新聞出版（朝日新書） 2014年 081-A-477 柏

◇スポーツの秋

- ・『パーフェクトマッチ：ヨアヒム・レーヴ勝利の哲学』 クリストフ・バウゼンヴァイン著/木崎伸也, ユリア・マユンケ 訳 二見書房 2015年 783.47-P 九段
- ・『嘉納治五郎と安部磯雄：近代スポーツと教育の先駆者』 丸屋武士著 明石書店 2014年 780.21-K 柏

◇食欲の秋

- ・『日本の食と酒』 吉田元〔著〕 講談社（講談社学術文庫） 2014年 080-K-2216 九段/柏
- ・『新大陸が生んだ食物：トウモロコシ・ジャガイモ・トウガラシ：カラー版』 高野潤著 中央公論新社（中公新書） 2015年 081-C-2316 九段/柏
- ・『江戸の食文化：和食の発展とその背景』 原田信男編 小学館 2014年 383.81-E 九段
- ・『作家のごちそう帖：悪食・鯨飲・甘食・粗食』 大本泉著 平凡社（平凡社新書） 2014年 910.26-S 九段

◇学問の秋

- ・『超したたか勉強術』 佐藤優著 朝日新聞出版（朝日新書） 2015年 081-A-510 柏
- ・『大学生学びのハンドブック：勉強法がよくわかる！3訂版』 世界思想社編集部編 世界思想社 2015年 377.9-D-A 九段
- ・『日本人のための英語学習法』 松井力也著 講談社（講談社学術文庫） 2015年 080-K-2287 九段/柏
- ・『大学生の学習テクニック第3版』 森靖雄著 大月書店（シリーズ大学生の学びをつくる） 2014年 377.9-D-A 九段
- ・『大学からの外国語：多文化世界を生きるための複言語学習』 田口紀子編 京都大学学術出版会 2015年 807-D 九段
- ・『言語はどのように学ばれるか：外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』 パッツィ・M.ライトバウン, ニーナ・スパダ〔著〕／白井恭弘, 岡田雅子訳 岩波書店 2014年 807-G 九段/柏

◇芸術の秋

- ・『手塚治虫の芸術』 ヘレン・マッカーシー著/小巻靖子, 有枝春訳 ゆまに書房 2014年 726.1-T 九段
- ・『ムーミンを生んだ芸術家トーヴェ・ヤンソン』 富原眞弓著/芸術新潮編集部編 新潮社 2014年 949.8-M 九段
- ・『歌舞伎四〇〇年の言葉：学ぶ・演じる・育てる』 堀越一寿編著 芸術新聞社 2015年 774.04-K 柏
- ・『歌舞伎の衣裳：演目別：鑑賞入門』 丸山伸彦監修 東京美術 2014年 774.67-K 九段
- ・『江戸時代落語家列伝』 中川桂著 新典社（新典社選書） 2014年 779.13-E 九段/柏
- ・『世界文学をDVD映画で楽しもう！』 大串夏身著 青弓社 2014年 778.04-S 柏
- ・『仕事道楽：スタジオジブリの現場 新版』 鈴木敏夫著 岩波書店（岩波新書） 778.77-S-A 九段/柏
- ・『徹底鑑賞!!100回「となりのトトロ」を見ても飽きない人のために』 細江光著 和泉書院 778.77-T 九段

「図書館を使う！レポート・論文の書き方ワークショップ」開催

6月30日（火）、7月2日（木）、3日（金）の3回にわたり、ラーニング・コモンズ2階のプレゼンテーションルームにて、ライティング・アドバイザーを講師に招き、「図書館を使う！レポート・論文の書き方ワークショップ」が開催されました。

ワークショップでは、レポート・論文の特徴、おおまかなレポート・論文の作成手順、テーマ設定、情報収集、集めた資料の検討、構成・執筆まで、実習を交えながら行いました。

3回合計で30人を超える参加者があり、参加者からは、「レポート・論文の基本が楽しく、分かり易く理解できてよかった」等、好評な意見が多く寄せられました。



また、ワークショップ開催に合わせた館内展示「読めばわかる！レポートの書き方」も行われました。

「どうやって書いたらいいかわからない！」という方から、「ある程度慣れてきたけれどももう少しコツを掴みたい…」という方まで、多くの方のレポートを支援する資料をピックアップして、展示を行いました。

ワークショップに参加された方も、参加されていない方も、きっとお気に入りの資料を見つけれられたことでしょう。



ビブリオバトル開催

7月12日（日）、昨年に引き続きオープンキャンパスのイベントの一つとして、知的書評合戦「ビブリオバトル」が開催されました。開催2年目の今回は、文学部国文学科3年の西 翔太さん、文学部国文学科2年の結城 光平さん、文学部国文学科3年の茶原 英太郎さん、文学部国文学科1年の坂本 愛央衣さん、計4人の学生が、挑戦してくれました。

オススメする本も違えば、表現方法もさまざま。それぞれの個性がきらりと光る書評合戦となりました。



すべての発表が終わった後、「一番思い出に残っている本」をテーマにした意見交換会を行いました。そこで4人は、紹介した本とは違う魅力的な本を自身の経験や思い出と重ね合わせ紹介し、また、それらの本から得たものを熱心に語ってくれました。観客に親しみを感じられるような発表で、非常に和やかな雰囲気でした。二松学舎の学生の魅力が伝わる意見交換会でした。

それぞれの発表を聞いて、会場の観客が一番「読んでみたい!」と思った「チャンプ本」に選ばれたのは、西 翔太さんが紹介してくれた『怖い絵』でした! 見事栄冠に輝いた西さんには、土屋茂附属図書館長より「チャンプ本賞」が授与されました。また、惜しくもチャンプ本に選ばれなかった3人の発表者には「奨励賞」が贈られました。

激戦を勝ち抜いた西さんには、11月に千葉県柏市立図書館と市内の4大学（本学、東京大学、開智国際大学、麗澤大学）で行われるビブリオバトルに、本学代表として出場していただきます。

今回の紹介者と紹介された図書は下記の通りです。（★がチャンプ本です）

西 翔太さん	★『怖い絵』（中野京子 著、角川書店 刊、2013年）
結 城 光平さん	『新世界より』（貴志祐介 著、講談社 刊、2008年）
茶 原 英太郎さん	『二十四の瞳』（壺井栄 著、角川書店 刊、2007年）
坂 本 愛央衣さん	『百年法 上・下』（山田宗樹 著、角川書店 刊、2005年）

こちらは、図書館で企画展示しております。ぜひ手にとってご覧ください!



教えて、漱石先生 「文献複写の謝絶をなくしたいの巻」

学生：先日はありがとうございました。柏から資料を取り寄せて、どうにかレポートを提出できました。

先生：それは良かったのう。さぞかし立派なものできたじゃろう。

学生：いやあ～(^_ ^)。ところで先生、論文の複写を申し込んだんですが、いくつか「謝絶」されてしまったんです。調べ方が足りなかったんでしょうか？

先生：どれどれ。「相愛大学研究論集」29巻にあるんじゃないかな。なるほど、CiNii Articlesもマガジンプラスも目次は見られるが、本文は見られないみたいじゃな。

学生：キカンリポ何とかにありますって言われたんですけど。

先生：機関リポジトリじゃ。各大学や機関で、紀要に掲載した論文や研究成果を公開しておるんじゃ。二松でも論文を公開しておるぞ。(図1)



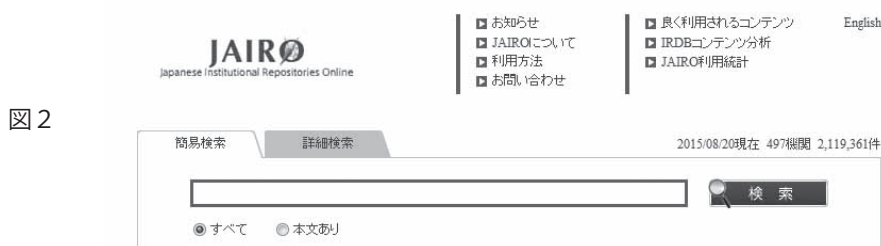
実はこの論文がリポジトリにあることが一発でわかる方法もあるんじゃ。

学生：もお～、先に教えて下さいよお～ 9(□`^`□)6

先生：それは「JAIRO (ジャイロ)」じゃい。

学生：……。

先生：ゴホンッ。ダジャレではないぞ。「JAIRO」では、日本国内の学術機関リポジトリの横断検索ができるんじゃ。(図2)



学生：うわあ～、便利ですねえ。

謝絶されたなかに『国文学年次別論文集』にありますというのもあったんですが、これって何ですか？

先生：紀要などに発表された論文を収集してまとめたものじゃな。年次別論文集のようなものは、国文学だけではなく、『中国関係論説資料』や『日本語学論説資料』もあるんじゃ。収録論文一覧もあるし、2009年までの索引ならマクロフィルム室のパソコンにインストールされているから、自分で調べてみい。

学生：は～い。いろいろな調べ方があるんですね。

先生：じゃがどれも一長一短がある。先に述べた「JAIRO」にだってすべての論文があるわけではない。大事なのは、面倒がらずに調べることで、少し手間をかけることで、資料が届くまでの日数を省略することができるかも知れんからのう。

学生：これで論文の複写依頼をしても「謝絶」されなくなるわけですね。頑張ります！

図書館川柳 「本の嘆き篇」

双松：沼千斎柏九先生、こんにちは。今日はおかしな夢を見たので、謎解き名人の先生に教えてもらいに来ました。変な川柳なんですけど、お願いします。

柏九：川柳ですか？私に分りますかねえ？

双松：これなんです。

柏九：ふーむ。きみはたしか図書館に勤務していましたね。

わかりました。きみの図書館には古い資料が多いですね。そこに無造作に付箋を貼って、付箋で文字が剥がれてしまったということでしょう。これは注意が必要です。せめて**文字に掛からないように付箋を貼る**というような気配りが求められますね。

双松：なるほど。そういうことだったのですね。では、次のもそんな感じでしょうか？

柏九：次があるのですか。ふむ、仰る通り似ていますね。これは本に線を書くことを指しているようです。**図書館の本**は自分一人が使うわけでは**ありません**。本によっては消しゴムで消すことで、印字が薄くなってしまうこともあります。もうひとつは本の端を折ることですね。ちょっと目印と思って折るのかもしれませんが、折り目は消えません。もっとひどいのは頁を切り取るという行為です。まったく言語道断です。

双松：傷つけるのもいろいろなパターンがありますね。次のはいかがでしょう？

柏九：うーん。どうもこれはきみの心の声のように思えますが？

双松：なるほど、そうか。自分の夢だから自分の声も聞きますよね。ときおり本棚で「おや、この本がなぜこんな所にあるのか」という場面に遭遇するんです。本棚の端のほうにはたまたま同じテーマの本がまとまって置いてあったりするんです。たまたま置き忘れたという可能性もありますが、いずれにしてもこうすることで、**本が見つからず、皆さんに迷惑がかかる**ことになりますよね。

柏九：そういうことになりますね。

双松：先生、こんなものもあるんですが。念のために言いますが、ぼくの早退願ではありませんよ。

柏九：おや、違うんですか？私ははっきりそうかと。ということは、ふむ、これは貸出した本が帰って来られない、いわゆる「延滞図書」の叫びですね。いつまでも借りた人の家にいて、図書館へ帰れない嘆きが見て取れます。本をいつまでも自分の手に置いておくということは、これも**他の人が利用する機会を妨げる**行為ですね。貸出期間中に本は返却しないと他の方が利用できませんからね。

双松：仰るとおりです。それでは最後にこれです。

柏九：やはりこれも本と関係するようですね。おそらく、入口近くの「新着図書コーナー」とかからの苦情ではないのですか。柏のもありましたよね？

双松：先生、よくご存じで。見ていく人も結構いると思うんですけど。もっと注目して欲しいということですかね。

柏九：しかし、きみは仕事熱心なんですねえ。いつもそんな夢ばかり見てるのですか？

双松：そういうわけではありません。でも、もしまた変な夢をみたら相談に来ますね。

柏九：わかりました。お待ちしてます。

何げない 付箋で文字が 消えてゆく

何をする 私のからだを 傷つけて

あっ見つけ こんな所に 君いたの

帰りたい いつまで私 ここにいる

無視するな 私はここに しかと居る

図書館だより

図書館カレンダー 開館日・開館時間は変更することがあります。詳しくは図書館ホームページをご覧ください。

九段図書館

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

9/1 (火)～9/4 (金) はレイトデー
9/12 (土) は入試のため閉館
9/21 (月)～23(水) は授業実施のため開館

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

10/12(月) は授業実施のため開館

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

11/2 (月) は学園祭のため閉館
11/23 (月) は授業実施のため開館

閉館 8:40～21:50 9:00～16:50 9:00～19:00

柏図書館

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

10/10 (土) は創立記念日のため閉館

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

11/2 (月) は学園祭のため閉館

閉館 9:15～17:00 9:15～16:30

レファレンス本の紹介

以前季報90号で、「レファレンスの窓」と称し、『参考書誌研究』に掲載されていた「中国詩詞翻訳索引」についての記事を書いたのですが、気がつくとそれが2冊の本にまとまっていました。相島宏編『中国詩詞翻訳索引』（文庫文献類従 43、金沢文庫閣、2015年）です。第1巻が先秦～五代まで、第2巻が宋代～清代までとなっています。九段、柏両図書館の参考図書のとこにありますので、必要な時はご覧ください。

なお、総序に「最初に発表したのは宋代で、1993年1月のことである。当然その後に出版された図書に収録された漢詩は、本書には未収録となる訳で、ご利用になられる方にはご留意いただきたい」とあるように、この索引が作られた後の図書にも目配りをする必要があります。しかし、その点を差し引いても有益な資料であることは疑いありません。以上の点に注意しながら、有効に索引を活用していただければと思います。

編集後記

季報93号をお届け致します。今号では、小野先生にお薦めの博物館などをご紹介いただきました。

また、本学のように、大学附属の博物館も都内にたくさんあります。（『Tokyo大学博物館ガイド』ブルース・インターアクションズ 2009年刊）ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

二松学舎大学附属図書館

季報

第93号

発行日 平成27（2015）年9月1日

発行 二松学舎大学附属図書館

九段図書館 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16

電話：03-3263-6364

柏図書館 〒277-8585 千葉県柏市大井2590

電話：04-7191-8758

印刷所 株式会社 サンセイ

電話：03-5227-8333